

母親学級における精神心理面及び栄養面に関する 指導方針に関する研究

(2) 乳幼児をもつ母親を対象にした学級の場合

日本総合愛育研究所

高橋悦二郎 高橋種昭 堀口貞夫

武藤静子 千賀悠子 高野陽 加藤忠明

水野清子 望月武子 権平俊子

山本清恵 萩原英敏 湯川礼子

1. 研究目的

本研究は昨年度の研究に継続して行われたもので、昨年度は妊産婦を対象にした母親学級に関する研究を行ったが、今年度は乳幼児をもつ母親を対象にした学級について行ったものである。現在においても、乳幼児をもつ母親を対象とした学級は、全国で巾広く各種のものが開かれているが、その全体的な実態については明らかにされていない。今回の研究は、そうした現在行われている母親学級の実態を明らかにすると共に、母親達が母親学級から学んでいるものや、それへの期待、不満などについて調べ、現在大きな課題となっている保健指導活動の一環としての母親学級のあり方や運営・指導方法や内容などについて検討を加え、その充実強化のための方策について考案するものである。

2. 研究方法

今回は下記の3種類の質問紙を用いた調査を実施した。

質問紙調査(1)、対象は母親学級を実施している側を対象としたもので、全国の保健所857か所、人口5万以上の都市全部と町村から抽出したものの計1,198か所に調査用紙を郵送し、回答を求めた。質問項目の内容は、学級の内容と受講者である母親に関するものを中心にしたものである。

質問紙調査(2)、対象は国立公衆衛生院に研修

に来院している保健婦26名、栄養士36名、計62名を対象にしたもので、それぞれの立場からみた現在の母親達の印象や指導上の留意点などについて質問したものである。

質問紙調査(3)、対象は保育園児、幼稚園児をもつ母親と、保健所の健診に来所した乳幼児をもつ母親を対象にして行ったもので、地域は主として東京、神奈川、青森の3か所であり、保健所の健診のケースのみ少数宛全国12県にわたっている。質問項目の内容は、母親学級についての印象や期待を中心に、育児についての不安や悩み、父親の育児参加などに関する8項目からなっている。調査対象とした母親の総数は、1,400名である。

3. 調査結果

(1)について

回収率は保健所の場合は非常に協力的で約80%の高率であったが、市町村の場合は教育委員会と他の部課との混乱もあったためか約30%と低調であった。分析は、実施機関別と地域別に分けて行った。

実施状況についてみると、教育委員会が最も多く行っており、約80%のものが実施しており、次いで市町村・保健所の順である。保健所は約40%が実施している。(表2-1)学級を実施しない理由は、予算の関係をあげる所が保健所、市町村に約1割みられる他は、他の機関で行っ

ているからということを経由にあげる所が多くみられた。(表2-2)

母親学級を開催中の子どもの世話は、開催者が面倒をみているものが過半数であり、教育委員会の場合は約8割の高率である。(表3-1) 面倒をみるものについては機関によって大きな違いがみられ、保健所の場合は圧倒的に保健婦が多く、次いでグループ内の母親、保母、市町村の職員、ボランティアなどの順であるが、教育委員会の場合はボランティアの母親が約4割もいるのが目立つ。次いで保母が約2割である。(表3-2)

母親学級に参加した母親についての実施者の印象は、育児や子どもの発達についての知識については「ふつう」とするものが殆んどであり、「豊かである」とするものが教育委員会に多く、「貧しい」とするものが保健所にやや多くみられる。(表4-1, 4-2)

学習意欲の場合も同じような傾向がみられ保健所、市町村の場合は40~50%が意欲的であるとしているが、教育委員会の場合は70%という高い数字である。(表5-1, 5-2)

指導に対する理解度については、「よく理解する」とするものが教育委員会の約6割を最高に市町村、保健所の順にみられ、保健所と教育委員会の数字は「ふつう」と「よく理解する」が全く逆である。しかし、この数字は教科内容も違い、必ずしも母親の理解力の程度を表すものとはいえない。(表6-1, 6-2)

父親学級や祖父母を対象にした学級も多く開いて貰いたいものであるが、父親学級は保健所が7%, 市町村5%, 教育委員会10%であり、祖父母学級は4%, 12%, 11%と父親学級よりやや多く開かれている。(表7, 8-1) しかし、地域的には祖父母学級が大都市に少なく、町村に多くなっている。(表7, 8-2)

学級の内容についてみると(表9-1, 2, 3) 学習テーマ数は教育委員会が保健所、市町村より多い。実施時期は保健所、市町村では約3割が健診時に行っており、対象も保健所と市町村では約4割が健診来所ケースである。

学級の人数は20~50名が最も多く、次いで11

名~20名であるが、教育委員会は20~50名が過半数を占めているのに反し保健所、市町村は20名以下のクラスがかなり多くみられる。

開催形態は1回のみ単発は少なく、多くの学級はシリーズなどの形態をとっている。

学習形態は講義形態のものが各機関とも約半数であるが、他の形態では機関によりかなりの違いがみられ教育委員会は集団討議方式が多い。

1テーマ当りの学習時間は約4時間である。

教材についても機関により違いが多くみられるが保健所、市町村ではパンフレットやテキストの使用が多く、視聴覚教材は教育委員会で最も多く使われている。

担当者は保健所と市町村では当然保健婦と栄養士が過半数を占めている。教育委員会の場合はその他が過半数を占めているように担当者は非常に広い範囲にわたっている。

協力機関の場合も実施機関により違いが大きい。その中で目立つのは保健所の場合の教育関係団体との協力の少さと教育委員会の児童相談所との協力の少さである。もっと保健と教育、教育と福祉の分野の協力があってよいように思える。

学習科目については(表10-1, 2, 3)に示す如く実施時期や対象、人数などについても学習の科目による違いは余りみられない。そのことは学習の形態や教材、担当者などについてもいれ科目による違いは案外に少ない。ということは単一職種の人がかかなり広い範囲の分野の指導を担当しているとも考えられる。

今後の課題については、テーマについてみると基本的な内容のものを行えという意見と同時により具体的で身近なテーマのものを提供すべきだとする意見がみられるし、親子関係や母親自身の精神衛生に関したテーマのものを望む声も多い。(表11-1) 会場についてはもっと広い場所と学習中の保育の場の確保を望む意見が保健所に多くみられる。市町村や教育委員会の場合は交通の便の良さや近い所で行えという意見と保育の場の確保の二つに意見が集中している。(表11-2) 講師、助言者については、保健所からはもっと幅広い専門家を、という意見が

非常に多いが教育委員会の場合は逆に身近かにいる地域の人々や先輩の母親を、という意見が圧倒的に多くみられる。(表11-3)

教材については視聴覚教材の利用を、という意見が全般に多い。特に教育委員会にその必要性を認めるものが多い。その他では保健所や市町村に手作りの教材や模型・写真などの展示物の使用を、という意見が多い。(表11-4) 広報活動の不足についてはどの機関も認めており、広報や個人通知、健診時のP.R.の強化を望んでいる。その他地域の人たちの協力や教育機関と連携してP.R.すべきだとの意見もみられる。(表11-5) その他の意見では保育室の開設や集団討議の場の提供を課題とするものも多いし働く母親のための教育の場の必要性を主張しているものもある。(表11-6)

表1 回収率

	配布数	回収数	回収率
保健所	857	624	72.8%
市町村	1,198	353	29.5%
全体	2,055	977	47.5%

表2-1 乳幼児をもつ母親を対象とした学級を実施しているかどうか
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
実施している	258 (41.4%)	66 (52.4%)	186 (81.9%)
実施していない	365 (58.6%)	60 (47.6%)	41 (18.1%)

表2-2 学級を実施していない理由
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
予算の関係	37 (9.0%)	7 (10.8%)	0 (0.0%)
意義を認めない	8 (2.0%)	2 (3.0%)	1 (2.6%)
他の機関で行っている	14 (36.2%)	18 (27.7%)	7 (18.4%)
その他の理由	204 (53.8%)	38 (58.5%)	30 (78.9%)

表3-1 学級実施中、子ども達の面倒をみるか
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
面倒をみる	151 (57.9%)	45 (55.6%)	148 (79.6%)
面倒はみない	110 (42.1%)	36 (44.4%)	38 (20.4%)

表3-2 面倒みるのは誰か
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
保 母	20 (8.0%)	6 (11.5%)	41 (22.4%)
保 健 婦	109 (43.8%)	15 (28.8%)	0 (0.0%)
指 導 員	11 (4.1%)	0 (0.0%)	9 (4.9%)
市町村の職員	19 (7.6%)	1 (1.9%)	19 (10.4%)
ボランティアの職員	18 (7.2%)	9 (17.3%)	70 (38.3%)
グループ内の母親達	24 (9.6%)	7 (13.5%)	16 (8.7%)
そ の 他	48 (19.3%)	14 (26.9%)	28 (15.3%)

表4-1 母親の育児や子どもの発達に関する知識の程度
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
貧 しい	20 (7.8%)	6 (9.4%)	7 (3.8%)
普 通	220 (85.9%)	55 (85.9%)	160 (87.0%)
豊 か	16 (6.2%)	3 (4.7%)	17 (9.2%)

表4-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町 村
貧 しい	8 (6.7%)	20 (6.3%)	5 (7.1%)
普 通	104 (87.4%)	270 (85.7%)	61 (87.1%)
豊 か	7 (5.9%)	25 (7.9%)	4 (5.7%)

表5-1 学習意欲
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
意 欲 が ない	5 (2.0%)	1 (1.5%)	2 (1.1%)
普 通	144 (56.5%)	31 (46.1%)	53 (28.8%)
意 欲 的 で ある	106 (41.6%)	35 (52.2%)	129 (70.1%)

表5-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町 村
意 欲 が ない	2 (1.7%)	4 (1.3%)	2 (2.8%)
普 通	47 (39.2%)	141 (44.9%)	40 (55.6%)
意 欲 的 で ある	71 (59.2%)	169 (53.8%)	30 (41.7%)

表6-1 指導に対する理解度
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
理 解 し ない	3 (1.2%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
普 通	190 (74.2%)	42 (65.6%)	69 (37.7%)
よ く 理 解 す る	63 (24.6%)	21 (32.8%)	114 (62.3%)

表6-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町 村
理 解 し ない	1 (0.8%)	3 (1.0%)	1 (1.4%)
普 通	60 (49.6%)	151 (51.0%)	44 (61.1%)
よ く 理 解 す る	60 (49.6%)	142 (48.0%)	27 (37.5%)

表7-1 父親学級を実施しているかどうか
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
実施している	26(7.2%)	4(5.2%)	20(10.2%)
実施していない	333(92.8%)	73(94.8%)	177(89.8%)

表8-1 祖父母学級を実施しているかどうか
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
実施している	15(4.2%)	9(11.8%)	21(10.8%)
実施していない	343(95.8%)	67(88.2%)	174(89.2%)

表7-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町村
実施している	14(9.6%)	29(7.4%)	7(7.5%)
実施していない	132(90.4%)	365(92.6%)	86(92.5%)

表8-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町村
実施している	4(3.0%)	30(7.6%)	11(12.0%)
実施していない	128(97.0%)	364(92.4%)	81(88.0%)

機関別、学級実施内容(昭和58年度)

表9-1

項目 機関	対象 数	学数 習の テ平 マ均	実施時期		対象		人数					開催形態			
			健 診 時	それ 以外 の時	健 診 対 象 者	それ 以外 の 人	10 名 ま で	11 〜 20 名	21 〜 50 名	51 〜 100 名	101 名 以 上	レ ギ ュ ラ ー	シ リ ー ズ	一 回 の み	臨 時
保健所	623	2.54	29.3%	70.7%	41.3%	58.7%	14.6%	34.2%	35.3%	10.6%	5.3%	26.6%	29.5%	40.3%	3.5%
市町村	116	2.85	31.1%	68.9%	39.2%	60.8%	4.8%	31.7%	49.1%	8.9%	5.5%	26.7%	30.4%	38.8%	4.0%
教育委員会	227	6.78	2.7%	97.3%	5.9%	94.1%	1.4%	15.6%	61.2%	15.8%	6.0%	26.4%	43.5%	29.5%	0.6%

表9-2

項目 機関	学習形態				一時 間 (単 位 の 平 均 学 習 時 間)	教材								担当者				
	講 義	実 習	見 学	集 団 討 議		掛 図	パン フ レ ッ ト	テ キ ス ト	ス ラ イ ド	ビ デ オ	映 画	な し	そ の 他	医 師	歯 科 医 師	助 産 婦	保 健 婦	栄 養 士
保健所	58.2%	20.6%	7.6%	13.5%	4.08	14.8%	38.6%	16.8%	11.0%	2.6%	5.2%	8.2%	2.7%	8.4%	2.6%	1.8%	45.9%	21.0%
市町村	50.2%	25.3%	5.9%	18.5%	4.72	10.6%	43.8%	16.6%	10.0%	2.6%	6.9%	8.4%	1.1%	8.0%	5.8%	3.5%	33.9%	18.8%
教育委員会	52.8%	19.0%	4.4%	23.8%	3.88	2.9%	14.7%	24.1%	4.4%	7.2%	11.1%	33.6%	2.0%	4.5%	1.1%	0.1%	4.4%	6.2%

表9-3

項目 機関	担当 者	協力機関								学習											
		心 理 教 育 家	そ の 他	保 健 所	児 童 相 談 所	家 庭 談 話 室	教 育 機 関	保 育 所	地 域 組 織	そ の 他	身 体 発 育	精 神 発 達	栄 養 に 関 する	生 活 習 慣 と し つ け	遊 び に 関 する	問 題 児 に 関 する	指 導 に 関 する	小 児 疾 病 に 関 する	安 全 と 事 故 防 止	そ の 他	
保健所	6.2%	14.2%	41.2%	6.1%	0.9%	4.8%	7.9%	17.0%	22.1%	13.8%	14.3%	13.0%	15.0%	9.4%	3.9%	10.0%	9.9%	10.6%			
市町村	9.9%	20.1%	25.5%	2.0%	6.5%	16.2%	6.5%	24.7%	18.6%	14.0%	15.3%	16.4%	17.8%	11.0%	3.8%	7.4%	6.3%	8.0%			
教育委員会	30.1%	53.7%	6.1%	0.7%	0.5%	40.1%	14.1%	12.1%	26.5%	12.3%	18.1%	7.4%	21.0%	12.3%	2.4%	4.8%	4.8%	16.8%			

表10-1

項目 学 習	対 象 数	学数 習の テ平 マ均	実施時期		対象		人数					開催形態			
			健 診 時	それ 以外 の時	健 診 対 象 者	それ 以外 の 人	10 名 ま で	11 〜 20 名	21 〜 50 名	51 〜 100 名	101 名 以 上	レ ギ ュ ラ ー	シ リ ー ズ	一 回 の み	臨 時
身体発育について	403	2.47	30.1%	69.9%	40.4%	59.6%	7.4%	25.9%	44.2%	14.7%	7.8%	30.8%	30.2%	36.8%	2.2%
精神発達について	426	2.74	25.6%	74.4%	35.3%	64.7%	6.6%	25.7%	46.3%	14.3%	7.0%	30.0%	34.0%	33.9%	2.1%
栄養について	401	2.15	33.8%	66.2%	43.5%	56.5%	6.9%	29.5%	41.8%	14.6%	7.2%	30.3%	25.9%	41.5%	2.2%
生活習慣としつけについて	459	2.80	24.3%	75.7%	34.3%	65.7%	6.2%	24.9%	45.9%	14.6%	8.4%	30.1%	32.6%	34.9%	2.3%
遊びについて	360	2.17	27.7%	72.3%	36.8%	63.2%	6.1%	27.5%	43.3%	15.3%	7.8%	32.5%	32.6%	32.5%	2.3%
問題児の指導について	135	1.90	31.6%	68.4%	47.4%	52.6%	12.4%	30.2%	39.5%	11.2%	6.6%	41.3%	24.0%	33.5%	1.2%
小児の疾病について	293	2.04	32.8%	67.2%	43.4%	56.6%	7.2%	30.8%	41.7%	13.7%	6.7%	31.4%	26.2%	40.7%	1.7%
安全と事故防止について	273	2.15	39.1%	60.9%	48.9%	51.1%	6.6%	29.5%	40.1%	15.7%	8.1%	31.3%	24.7%	41.4%	2.6%
その他	303	3.02	20.0%	80.0%	27.3%	72.7%	8.0%	21.0%	48.7%	14.4%	7.9%	24.9%	38.6%	34.1%	2.4%

表10-2

学 習 項 目	学 習 形 態				一 時 （単 位 一 時 間） テ マ マ 学 習 均	教 材							
	講 義	実 習	見 学	集 団 討 議		掛 図	パン フ レ ット	テ キ ス ト	ス ラ イ ド	ビ デ オ	映 画	な し	そ の 他
身体発育について	54.0%	18.4%	8.6%	19.0%	6.43	13.7%	33.5%	17.8%	10.5%	4.9%	7.7%	9.1%	2.8%
精神発達について	56.0%	14.7%	7.3%	22.0%	6.56	12.4%	30.6%	17.2%	8.9%	6.2%	8.7%	13.5%	2.5%
栄養について	50.6%	25.4%	10.1%	14.0%	6.88	13.6%	39.7%	19.2%	10.8%	2.7%	6.5%	5.3%	2.3%
生活習慣としつけについて	53.7%	16.6%	7.2%	22.5%	5.70	11.1%	30.7%	17.3%	9.8%	5.5%	8.8%	14.3%	2.4%
遊びについて	46.1%	24.2%	7.6%	22.0%	7.37	11.1%	31.4%	17.9%	9.4%	4.6%	8.2%	14.4%	2.9%
問題児の指導について	44.2%	19.2%	7.8%	28.8%	7.63	12.2%	33.2%	14.9%	8.6%	3.0%	9.1%	12.9%	6.1%
小児の疾病について	57.1%	17.0%	8.8%	17.1%	7.21	14.9%	35.4%	18.9%	12.8%	3.2%	5.7%	6.8%	2.3%
安全と事故防止について	53.4%	19.5%	10.3%	16.9%	7.59	15.3%	35.8%	17.4%	12.1%	3.1%	6.0%	7.2%	3.2%
そ の 他	49.8%	21.1%	7.7%	21.5%	7.05	11.7%	29.9%	18.3%	11.0%	3.3%	8.7%	14.4%	2.7%

表10-3

学 習 項 目	担 当 者							協 力 機 関						
	医 師	歯 科 医 師	助 産 婦	保 健 婦	栄 養 士	心 専 門 教 育 家	そ の 他	保 健 所	児 童 相 談 所	家 相 庭 談 児 童 室	教 育 機 関	保 育 所	地 域 組 織	そ の 他
身体発育について	9.0%	2.6%	2.1%	38.3%	19.0%	11.0%	18.0%	36.3%	5.6%	1.7%	12.7%	8.3%	13.6%	21.9%
精神発達について	7.6%	1.4%	1.8%	33.7%	15.9%	18.4%	21.1%	28.2%	6.2%	1.8%	18.2%	10.4%	12.6%	22.5%
栄養について	6.2%	3.1%	2.1%	34.1%	34.7%	4.4%	15.4%	37.8%	5.2%	1.4%	9.9%	7.3%	15.1%	23.3%
生活習慣としつけについて	5.9%	2.9%	1.5%	32.2%	16.4%	15.5%	25.7%	25.7%	5.9%	1.8%	20.6%	10.0%	13.8%	22.3%
遊びについて	5.5%	2.2%	1.7%	31.7%	16.1%	15.0%	27.9%	27.0%	7.3%	2.5%	17.6%	11.9%	13.1%	20.6%
問題児の指導について	9.7%	3.1%	2.2%	31.9%	13.5%	18.9%	20.7%	28.9%	14.5%	3.2%	12.7%	12.1%	8.6%	20.1%
小児の疾病について	15.1%	2.8%	2.6%	39.1%	20.8%	5.9%	13.7%	36.3%	6.5%	1.3%	8.2%	8.0%	13.0%	26.6%
安全と事故防止について	9.0%	2.0%	2.3%	39.5%	21.7%	7.4%	18.1%	36.4%	7.2%	1.8%	10.1%	8.2%	11.3%	25.0%
そ の 他	5.0%	3.3%	2.1%	29.7%	13.6%	9.7%	36.5%	21.6%	2.7%	0.2%	21.2%	10.4%	15.4%	28.5%

学級運営の今後の課題

表11-1

1. テーマについて

事 項	機 関 別	保健所	市町村	教 育 委 員 会
1. 精神発達、しつけ、遊び、疾病、栄養などの基本的内容		75	18	18
2. 親子関係に関するもの		29	12	18
3. より具体的に身近なテーマを		22	4	29
4. 母親自身の心理的成長・不安の解消など		15	18	0
5. 親の役割、あり方について		12	0	10
6. 親同志の話し合いの場づくり（地域組織の育成）		12	3	6
7. 障害と療育		6	0	0
8. 思春期教育の充実を（性教育などを含む）		6	1	0
9. テーマ別に選択できるもの		2	0	0
10. 祖父母を対象としたテーマを		2	0	0

表11-2

2. 会場について

事 項	機 関 別	保健所	市町村	教 育 委 員 会
1. もっと広い場で（一箇所です）		19	0	9
2. 学習中、子どもの面削・世話できる保育室（託児設備）のある場を		14	11	35
3. 和室（タタミ）で		10	1	1
4. 子どもが遊べる場のあること		10	0	4
5. 交通の便がよく、身近な場で		9	20	48
6. 視聴覚機器が活用できる会場を		4	2	2
7. 戸外でも		3	0	0
8. 学級専用の教室を		2	1	0
9. 安全性の高い場で		2	0	0

表11-3

3. 講師助言者について

事 項	機 関 別	保健所	市町村	教 育 委 員 会
1. もっと巾広い専門家		41	18	19
2. (先輩の)母親を		8	3	14
3. 身近にいる地域の人に		8	0	27
4. テーマにそくした人を		3	2	0
5. 学級の専任講師を		2	0	0

表11-4

4. 教材について

事 項	機 関 別	保健所	市町村	教 育 委 員 会
1. 視聴覚教材の利用を		56	15	65
2. 手づくりの教材を		22	10	1
3. テーマに合う新しいものを		11	0	0
4. 模型、写真などの展示物を		8	0	0
5. 子どもの興味をひくものを		8	0	0
6. 個人向けの教材がほしい		2	0	0
7. 思春期教育的な教材を		1	0	0
8. 母子相互関係に関する教材を		1	0	0

表11-5

5. 広報活動について

事 項	機 関 別	保健所	市町村	教 育 委 員 会
1. 広報、個人通知および健診時にPRを		67	25	29
2. 地域の組織と協力してPRを		15	2	10
3. テレビを利用して(有線放送を含めて)		4	3	2
4. 教育機関と連携してPRしたい(保育所・幼稚園など)		1	2	16

表11-6

6. その他について

事 項	機 関 別	保健所	市町村	教 育 委 員 会
1. 開催中の子どもの世話・保育の問題		17	4	3
2. 講義だけでなく、参加者の討論形式を加えて		14	2	8
3. 受講生の意見を反映させたい		10	0	0
4. 学級を通じて仲間づくりを(自主的なサークルへ)		10	0	0
5. 仕事をもつ婦人の参加をどうするか		8	3	18
6. 他の機関との連携を		8	3	6
7. 人集めをどうするか		6	5	2
8. 学習内容の充実		6	3	9
9. 父親・祖父母を対象とする学級設置を		6	1	3
10. 親としての自覚をもたせるようなものを		4	0	0

(2)について

質問紙調査(2)は、保健婦や栄養士が母親達をどのようにとらえ、どのように指導を行っているかについてみたものであるが、結果をみると保健婦と栄養士の間には、やはりその見方や指導上の留意点に違いがみられる。

母親の印象(表12)については、神経質な母親が多いとするものが栄養士に多くみられ保健婦には少ない。このように栄養士が母親を神経質とみるのは、栄養指導の場で食事量や栄養の所要量などに細かく気を使う母親に出会う機会が多いためとも考えられる。干渉が多い母親については、共に多いとしており両者の間に差はみられない。

次に指導全般についての留意事項から保健婦、栄養士の指導の目標なり理念をみると(表13)父親の育児参加や、祖父母の育児援助について強く留意しているというのが保健婦に多くみられ栄養士には少ない。同じように家庭環境条件についても保健婦の関心の強さに比べ栄養士の関心はやや低調である。

偏食や少食の指導上の留意点(表14)についても幼児の精神面への留意が保健婦に強くみられるが栄養士の場合はやや弱いようである。遊びや睡眠との関連についても栄養士の関心は保健婦に比べて薄いといえよう。

健康増進の指導の場合も、全く同じことがある。(表15)

以上の結果から栄養士の場合、母親指導の際にもう少し環境面についての関心や配慮があってもよいように思える。それに比べ保健婦の場合は、かなり広い見地から子どもの状態についてみるようにしているといえる。

(3)について

母親に対する質問紙調査の結果からは、母親学級を今後運営していく上で参考になるものが多く得られた。

現在乳幼児をもつ母親の多くは、多かれ少なかれ育児に不安をもっており、過去においてもいろいろ育児に関する不安や悩みをもっていたことがわかった。その不安や悩みの多くは、栄養、食事、生活やしつけなどに関したものであ

表12 母親についての印象

()保健婦

項目	非常に多い	多い	それ程でもない	少ない	非常に少ない	わからない	無回答
1. 神経質な母	1(0)	13(3)	13(12)	7(6)	1(0)	0(3)	1(2)
2. 健診に非協力的な母	1(0)	3(0)	5(0)	11(16)	12(9)	1(1)	3(0)
3. 指導に対して真剣でない母	0(0)	2(0)	7(6)	18(12)	8(6)	0(1)	1(1)
4. 育児を他人に押しつけてしまう母	0(0)	5(1)	4(6)	12(9)	12(7)	2(1)	1(2)
5. 育児に対して非親的な母	0(0)	0(1)	2(8)	16(6)	14(9)	3(1)	1(1)
6. 夫同伴で受診する母	2(0)	1(1)	3(4)	9(8)	19(12)	0(1)	2(0)
7. 子どもに無関心な母	0(0)	0(0)	2(5)	17(7)	15(13)	1(1)	1(0)
8. 虐待している母	0(0)	0(0)	0(1)	4(5)	21(16)	8(3)	3(1)
9. 大人びたしつけを強要する母	0(0)	4(4)	2(7)	12(8)	12(3)	5(4)	1(0)
10. 干渉の多い母	1(0)	13(13)	9(8)	5(2)	4(1)	3(2)	1(0)
11. 育児が風潮に流されてる母	0(2)	10(8)	12(6)	2(7)	8(1)	3(2)	1(0)

表13 指導全般についての留意事項

()保健婦

項目	全く留意しない	どちらかと言えば留意しない	どちらとも言えない	どちらかと言えば留意している	強く留意している	無回答
1. 家族構成	0(0)	0(0)	3(1)	19(4)	14(21)	0(0)
2. 家庭の職業	0(0)	4(0)	6(2)	21(14)	5(10)	0(0)
3. 家庭の経済状態	1(0)	6(1)	10(3)	15(14)	2(8)	2(0)
4. 対象乳幼児の健康状態	0(0)	0(0)	0(1)	8(2)	28(21)	0(1)
5. 対象乳幼児の発育状態	0(0)	0(0)	3(1)	7(3)	26(21)	0(1)
6. 対象乳幼児の発達状態	0(0)	1(0)	2(1)	11(3)	22(20)	0(0)
7. 母親の年齢	0(0)	3(0)	10(4)	20(17)	3(5)	0(0)
8. 母親の就労状況	0(0)	0(0)	4(4)	25(8)	7(14)	0(0)
9. 母親の健康状態	0(0)	2(0)	6(1)	19(8)	9(17)	0(0)
10. 昼間の保育者	0(0)	0(0)	2(2)	21(11)	13(13)	0(0)
11. 祖父母の育児援助	0(0)	1(0)	3(2)	21(12)	11(12)	0(0)
12. 父親の育児参加・援助	1(0)	9(0)	11(3)	13(16)	1(7)	1(0)
13. 住居環境の実態	2(0)	5(0)	11(8)	14(11)	3(7)	1(0)

表14 偏食・少食などの指導上の留意事項

()保健婦

項目	全く留意しない	どちらかと言えば留意しない	どちらとも言えない	どちらかと言えば留意している	強く留意している	無回答
1. 幼児の精神発達状態	0(0)	2(0)	7(3)	16(8)	11(14)	0(1)
2. 幼児の情緒発達	0(0)	2(0)	10(1)	13(7)	11(17)	0(1)
3. 幼児の身体発育状態	0(0)	0(0)	1(4)	15(6)	20(15)	0(1)
4. 幼児の運動発達	0(0)	3(0)	4(4)	15(9)	14(12)	0(1)
5. 幼児の遊びの状況	0(0)	4(0)	2(2)	17(8)	13(15)	0(1)
6. 幼児の睡眠の状況	0(0)	5(0)	5(5)	14(9)	12(11)	0(1)
7. 幼児の保育者の種類	0(0)	0(0)	2(2)	21(8)	13(15)	0(1)

表15 健康増進についての指導上の留意事項

()保健婦

項目	全く留意しない	どちらかと言えば留意しない	どちらとも言えない	どちらかと言えば留意している	強く留意している	無回答
1. 対象児の身体発育状態	0(0)	2(0)	3(3)	13(7)	17(16)	1(0)
2. 対象児の精神発達状態	0(0)	2(1)	12(2)	9(4)	12(19)	1(0)
3. 対象児の運動発達状態	0(0)	1(1)	7(2)	17(4)	10(19)	1(0)
4. 対象児の病名の状況	0(0)	0(0)	3(2)	14(5)	18(19)	1(0)
5. 家族構成	0(0)	1(0)	7(1)	14(13)	13(12)	1(0)
6. 母親の就労の状況	0(0)	0(0)	3(3)	20(13)	12(8)	1(2)
7. 母親の健康状態	0(0)	0(0)	5(3)	22(9)	8(14)	1(0)
8. 対象児の睡眠の状況	0(0)	1(0)	8(2)	15(7)	11(15)	1(2)
9. 乳幼児の遊びの実態	0(1)	3(0)	6(2)	17(4)	9(18)	1(1)
10. 対象児の食生活	0(0)	0(0)	1(2)	6(5)	27(18)	2(1)
11. 住宅の状況	1(1)	7(0)	10(5)	15(13)	2(6)	1(1)
12. 住宅付近の環境	0(1)	7(1)	10(4)	15(9)	3(10)	1(1)
13. 対象児の保育の状況	0(0)	0(0)	8(1)	17(6)	10(17)	1(2)
14. 対象児の友達	1(2)	4(0)	9(1)	15(8)	6(14)	1(1)

る。(表16, 17)しかし、残念なことに母親学級でそうした悩みや不安が解消したケースは余り多くない。最も多い東北地区の母親においても約1/3の数である。(表18)

また、育児についての話を聞いたり学んだためにかえって迷ったものが約3割の母親にみられた。母親を迷わせたものの中で最も多いのが育児書である。次いで友人・知人の話であり、医師、保健婦を挙げるものも約1割の母親にみられた。(表19)

父親の育児への参加については、殆んどの母親が望んでいるが、「いつも育児を手伝え」とするものは、高学歴の母親や仕事をもっている母親に多く、東北の場合は少ない。30代以上の母親においては20代の母親に比べ直接的援助よりも精神的援助を期待するものが多くみられる。(表20)

そして父親が仕事を優先して家庭をかえりみないという不満や、自分勝手であるという不満を非常に多くの母親が持っている。このことは現在の自分の環境についての問題の中で、家族のことで気になったりストレスを感じるものが非常に多いことと大いに関連があるように思える。(表21)

また、調理がわずらわしい、食事にまで手がまわらないというものが2割の母親にみられることも現在の母親の実態を示すものといえよう。

このような状態にある母親を考えると母親教育の充実強化ということが大いに待たれるわけである。しかし母親を対象にした学級への出席状況についてみると必ずしも期待するほど良く

はなく、約半数の母親しか利用していないのが現状であり、特に東京、神奈川のような都市においては少ない(表22)。欠席の理由の中に仕事があって行かれないとするものが多いがもしそうであるなら母親学級の開催日時、場所などについて再考が必要であり、仕事を持つ母親が出席し易い日時、場所を選んで開催されねばならない(表23)。

母親学級に出席した母親の意見についてみると、この場合も現在の母親学級のあり方について考えさせられる意見が多い。

まず母親学級に出席してどのようなことが役立つかをみると「母親同志話し合えた」という答が最も多く約4割の母親がそのことを強調している。これは母親学級のあり方について大いに考えさせる数字である。(表24)

次に母親学級に対する不満の有無をみると殆んどの母親が不満あり、と答えている。その不満の内容はさまざまであるが、内容がつまらない、自分の問題に当てはまらない、時間が短いなどの意見が多い。(表25, 26)

母親学級でどのようなことを教えて貰いたいかという問には、すぐ役立つものという意見と親としての心構え、基礎的な発達や発育に関する知識という前者の意見とは全く逆の意見が多くみられ、母親の期待するものには非常に巾のあることがわかった。(表27)

学級の形態としては、話し合い形式を望むものが圧倒的に多く、次いで多いのは実習形式であり一方的な講義形式の学級は最も人気がないといえる。(表28)

表16 現在、育児に自信がありますか

項目	自信がある	やや自信がない	自信がない	無記入
実数	229	504	99	25
%	26.7%	58.8%	11.6%	2.9%

表17 お子さんの生活や食事のことで困ったこと、心配なことがありましたか

項目	発に育やしたと	病関したと	栄に養や食事	生に活や育児と	な
実数	212	208	331	299	189
%	17.1%	16.8%	26.7%	24.1%	15.3%

表18 母親学級で学んだことによって解決した問題がありましたか

地域別	なかった	あった	無記入
北・海東北	96 (39.0%)	87 (35.4%)	63 (25.6%)
関東	294 (54.3%)	107 (19.8%)	140 (25.9%)
中四九 国国州	36 (51.4%)	21 (30.0%)	13 (18.6%)

表19 育児について話を聞いたり学んだために余計に迷ったことがありますか

項目	育児書	テレビ・オ	友人の話し	医師の話	保健婦の話	学集・級団等指の導	その他	ない
実数	105	51	99	29	27	10	19	599
％	11.2%	5.4%	10.5%	3.1%	2.9%	1.1%	2.0%	63.8%

表20 父親の育児への参加について

項目	育児を手伝う	時々困った	精神的な援助	その他	ない
実数	182	351	431	47	19
％	17.7%	34.1%	41.8%	4.6%	1.8%

表21 現在の父親達に不満がありますか

項目	ある	ない	無記入
実数	430	366	61
％	50.2%	42.7%	7.1%

表22 学級に出席したことがありますか

地域別	はい	いいえ	無記入
北・海東北	120 (48.8%)	119 (48.4%)	7 (2.8%)
関東	186 (34.4%)	344 (63.6%)	11 (2.0%)
中四九国国州	36 (51.4%)	32 (45.7%)	7 (2.9%)

表23 学級に出席しなかった理由は何か

地域別	仕あるから	テでらレレ情報か本等得ら	他にる子もが	会遠い場が	その他	無記入
北・海東北	59 (49.6%)	12 (10.1%)	15 (12.6%)	11 (9.2%)	24 (20.2%)	
関東	187 (54.4%)	38 (10.0%)	28 (8.1%)	23 (6.7%)	95 (27.6%)	
中四九国国州	7 (21.9%)	4 (12.5%)	4 (12.5%)	6 (18.8%)	9 (28.1%)	2 (6.3%)

表24 学級に出席して役に立ったのはどういうことですか

項目	育て方	子がわかつた	不安消しが	自信がついた	母話し合え	その他	ない	無記入
実数	79	83	98	42	135	16	20	384
％	9.2%	9.7%	11.4%	4.9%	15.8%	1.9%	2.3%	44.8%

表25 出席して不満がありましたか

地域別	はい	いいえ	無記入
北・海東北	110 (91.7%)	5 (4.2%)	5 (4.2%)
関東	160 (86.0%)	11 (5.9%)	15 (8.1%)
中四九国国州	35 (97.2%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)

表26 不満なのはどのような点ですか

地域別	内容が足りない	理解できない	自分の子に当り	時間短	質問できない	会場が遠い	その他	無記入
北・海東北	6 (5.0%)	6 (5.0%)	4 (3.3%)	15 (12.5%)	2 (1.7%)	5 (4.2%)	4 (3.3%)	78 (65.0%)
関東	19 (10.2%)	2 (1.1%)	15 (8.1%)	18 (9.7%)	5 (2.7%)	13 (7.0%)	9 (4.8%)	105 (56.5%)
中四九国国州	1 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (11.1%)	0 (0.0%)	2 (5.6%)	1 (2.8%)	28 (77.8%)

表27 どういうことを教えてもらいたいですか

項目	実役立につく	子どもの基礎的知識	親子と構てのえ	自個々の子問題	その他	無記入
実数	149	135	131	97	4	341
％	17.4%	15.8%	15.3%	11.3%	0.4%	39.8%

表28 どのような考え方、学習方法がよいと思いますか

地域別	項目	講義形式	話し合い形式	実習的指導	その他
北・東 海・道	31 (25.8%)	77 (64.2%)	52 (43.3%)	3 (2.5%)	
関 東	49 (26.3%)	110 (59.1%)	82 (44.1%)	7 (3.8%)	
中四九 国国州	2 (5.6%)	24 (66.7%)	21 (58.3%)	0 (0.0%)	

以上3種類の質問紙調査の結果から現在の母親については次のことがいえよう。

1. 母親達の多くは育児について悩みや不安などを持っている。
2. その不安や迷いの中には、育児書や知人や友人からの情報により生まれたものも多く含まれている。
3. 父親(夫)の育児への参加については圧倒的に望むものが多いが、直接毎日の育児への参加を希望するものは必ずしも多くない。
4. 保健婦や栄養士のみる母親には、干渉が多く神経質な母親が多い。
5. 母親の多くは家庭内の問題に関してストレスを感じている。
6. 食事を作る事をわずらわしく思ったり、手をかける時間がないという母親が多い。

以上の母親の状況から考えて、それに対応する活動として母親学級の充実強化が是非必要と思われるが、現在の母親学級の状況は次の如くであり改善を必要とする部分が多い。

1. 母親達の出席状況は低調である。
2. 母親学級の内容が必ずしも母親達の要求や期待にできていない。
3. 仕事を持つ母親達の出席が困難である。
4. 学習形態も母親達の望むような話し合いや実習形態のものが少ない。

従って今後母親学級を充実強化するためには、まず母親達が出席し易い日時と場所を選ぶことが先決であり、その内容も母親の期待に応えるものでなければならない。学習法も視聴覚教材の積極的な導入が必要であるし、話し合いや実習も活潑に行われなければならない。講師についても専門家は勿論のこと、地域の育児経験者の中から適当な人を依頼して話し合いに加わってもらうなど、今以上に身近な問題を徹底的に皆で学ぶようにすれば母親達の母性の成長もごく自然に効果的に行われ、現在問題になっている母性の歪みや未熟などの問題の解決にも役立つはずである。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 研究目的

本研究は昨年度の研究に継続して行われたもので、昨年度は妊産婦を対象にした母親学級に関する研究を行ったが、今年度は乳幼児をもつ母親を対象にした学級について行ったものである。現在においても、乳幼児をもつ母親を対象とした学級は、全国で巾広く各種のものが開かれているが、その全体的な実態については明らかにされていない。今回の研究は、そうした現在行われている母親学級の実態を明らかにすると共に、母親達が母親学級から学んでいるものや、それへの期待、不満などについて調べ、現在大きな課題となっている保健指導活動の一環としての母親学級のあり方や運営・指導方法や内容などについて検討を加え、その充実強化のための方策について考案するものである。